様式Ｃ－１９

# 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　24　年　3　月　31　日現在

機関番号：３４５０４
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2009～2011
課題番号：２１６５３０８７
研究課題名（和文）　「子ども」の保護・養育と遺棄をめぐる学際的比較史研究

研究課題名（英文）　Interdisciplinary Comparative History of the Abandonment and Protection of Children

研究代表者
橋本　伸也（HASHIMOTO　NOBUYA）
関西学院大学・文学部・教授
研究者番号：30212137

研究成果の概要（和文）：
子どもの保護・養育と遺棄にかかわる問題群について、以下の二つの観点から研究を進め、それぞれ出版企画化を進めることができた。①「捨て子」処遇を中心としつつ、その多様な問題水域についてヨーロッパ、日本、イスラーム圏などにまたがる諸地域間の比較という観点から解明した。②「子どもの保護」にかかわる国家機能の史的変遷について、近現代世界における「福祉国家と教育」という観点から理論化・モデル化を図った。

研究成果の概要（英文）：
Problematics of the abandonment and protection of children were analyzed form the two perspectives: 1) the issue was analyzed from the viewpoint of comparison between various areas of Europe, Japan and Islamic world interdisciplinarily, with child-abandonment as a central topic, 2) historical theorization and model-construction of functions of states concerning to child-protection from the viewpoint of “welfare states and education” in modern world.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合　計 |
|---|---|---|---|
| 2009 年度 | 900,000 | 0 | 900,000 |
| 2010 年度 | 1,000,000 | 0 | 1,000,000 |
| 2011 年度 | 1,000,000 | 300,000 | 1,300,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総　計 | 2,900,000 | 300,000 | 3,200,000 |

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：教育学・教育学
キーワード：子ども、保護、遺棄、比較教育社会史、福祉国家、新自由主義、児童保護、乳幼児保護

１．研究開始当初の背景
「子どもの保護と遺棄」をめぐる問題群が日本国内のみならず世界規模で進行している格差拡大（階層分化）・貧困化と福祉国家の危機、あるいは地域紛争の深刻化のなかでよりいっそう切実の度を深める一方で、この主題に関する研究はさまざまな学問研究分野に分断されて総合化されておらず、問題の包括的・構造的な把握にとどかないきらいが見られた。そこで、「保護･遺棄」問題が国家

的プロジェクトとして本格的に取り上げられる近世以来の長期的な歴史的射程を備えた多角的観点からアプローチするとともに、そこで得られた知見を総合するような研究上のストラテジーが必要であった。

２．研究の目的

近代から現代にいたる「子ども」の保護と養育の制度化過程を、それと表裏一体のものとしての「遺棄」問題をも含み込みつつ、学際的な比較史的アプローチにより解明するための分析枠組みを構築し、いくつかの地域についての事例研究を行うことを目的としてきた。その際、近世以来の国家と社会諸集団による「保護」機能の多重的な展開過程をとりわけ「捨て子」問題を中軸に据えつつ、より広範な事象に即して個別事例的に確認するとともに、国家論的なアプローチをもう一つの軸として設定し、保護の契機を含んだ「教育」と福祉国家との関連を重点的に論ずることとした。

３．研究の方法

教育学のみならず社会福祉学・保育学・法学（司法福祉学）・労働経済学（児童労働問題）等に研究が分断され、諸分野間の相互乗り入れによる包括的アプローチをなしえずに来たことに配慮し、分野横断的な学際的研究組織を設けて、「子ども」の保護・養育と遺棄に関する総体的な歴史像の形成に資するような研究体制を構築するとともに、この問題にたいする若手研究者の関心の高まりに留意して、共同研究体制のなかに基礎的な理論検討を行う「若手部会」を設けて、独自の研究会を開催した。

諸分野の研究者を糾合した学際的研究の推進のために各分野で蓄積されてきた知見や理論的枠組みの共有化を図るための研究会の開催とディスカッション・ペーパーの刊行を重視し、それらを通じて研究動向に関する交流と分析、理論・モデル構築を重点的な課題とした。

４．研究成果

研究期間の３年間を通じて開催してきた研究会における個別研究報告は以下のように多岐にわたる。（後掲の研究代表者・研究分担者・連携研究者・研究協力者以外には所属を記す）

山岸利次（宮城大学）「ヴァイマル期ドイツにおける教育と「社会」概念」

塩崎美穂「幼保二元体制と〈家族〉という福祉思想」

三成美保「ドイツにおける生殖法制の展開：嬰児殺・断種・中絶にみる＜保護＝遺棄＞の選別基準」

岡部造史「フランス近現代の児童保護史をめぐる研究状況」

橋本伸也「福祉国家と教育をめぐる論点の整理主としてヨーロッパの文脈から」

中野智世「ドイツ社会国家論の再検討」

また、小玉・沢山を中心に「捨て子」「保護」にかかわる研究動向の分析を数度にわたって行った。

以上を踏まえて、2012 年 3 月 24 日には総括シンポジウム「近現代世界における国家・社会・教育」を開催した。報告タイトルは以下の通りである。

橋本伸也・基調報告「近現代世界における国家・社会・教育―「福祉国家と教育」という観点から―」

岩下誠「近代イングランドにおける教育をめぐる国家と社会」

沢山美果子「日本近世公権力による人口と『いのち』への介入」

前田更子「フランスにおける学校をめぐる国家・教会・社会の複合的関係」

秋葉淳「オスマン帝国における近代国家の形成と教育・福祉・慈善」

小玉亮子「ドイツにおける社会国家形成と児童保護政策」

内山由里「前世紀転換期イギリスにおける教育の政治空間」

長嶺宏作「戦後アメリカの福祉国家の失敗」

広田照幸「福祉国家から新自由主義的転回なかでの教育政策と社会の変容」

以上の研究活動の成果のうち、2010 年度までに得られたものはオンライン版のディスカッション・ペーパー・シリーズ（後掲ＵＲＬを参照のこと）を作成してその都度公開するとともに（第１号及び第２号）、それらを印刷・合本して後掲の『中間報告書』として冊子体で刊行した。

本共同研究を通じて明らかにされた事例及び理論的検討の成果については、「保護と遺棄」および「福祉国家と教育」という二つの柱に即して、研究代表者と研究分担者らを編者とした以下の二冊の著書として公刊を予定している。

広田照幸・岩下誠・橋本伸也編『近現代世界における国家・社会・教育』（仮題、昭和堂、2012 年度中の刊行を予定）。

上記の総括シンポジウムの成果に基づき、

広義の福祉国家の形成過程を 18 世紀までさかのぼってたどった上で、これとは別次元で発生してきた学校教育が福祉国家的政策体系に包摂され、それが子ども・青少年を対象とした福祉的施策として展開される様態を、現代にいたる長い時間的射程とヨーロッパや日本、オスマン帝国などのイスラーム地域を含む空間的広がりの中で把握することを試みる。

沢山美果子・小玉亮子・橋本伸也『保護と遺棄の子ども史』（仮題、昭和堂、2013 年度中の刊行を予定）

子どもの「保護と遺棄」をめぐる問題水域を、現代の問題状況も視野に入れながら理論的に解明するとともに、「捨て子」に焦点化した多国の事例間比較（日本、イングランド、オーストリア、イラン）および、「保護・遺棄」問題として把握可能な問題群の事例的把握（保護遺棄法制［ドイツ］、児童保護施策［フランス］、戦争障害者［ドイツ］、戦災孤児［ドイツ］、戦時下乳幼児保護［日本］）を試みる。

これら二著はいずれも、教育学・歴史学・法史学・社会福祉学・社会学等の多分野にまたがる執筆者を得ることとなっており、多国間比較とともに学際性を追求した当初の目的が達成されることとなる。特に、従来ほとんど注目されることのなかったイスラーム圏をも対象に加えて、ヨーロッパ及び自国中心主義的な枠組みに留まりがちであったこの主題をより大きな文脈のなかに据え直すことができた点は、本研究の重要な成果である。また、近世から現代までの３世紀におよぶ時間軸を設定して、包括的な歴史像を仮説的にせよ構築する試みを図った点も、重要な貢献であると言える。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 15 件）

1. 江口布由子「19 後半ー20 世紀前半におけるウィーンの「子どもの流通」―今、社会的子育ては展望できるだろうか」江口厚仁（編）『圏外に立つ法／理論：法の領分を考える』ナカニシヤ出版、2012、印刷中・頁未定、査読無。

2. 小玉亮子「幼児教育をめぐるポリティクス−国民国家・階層・ジェンダー」『教育社会学研究』第 88 号、2011 年、7−25 頁、査読無。

3. 小玉亮子「＜母の日＞が政治に現れるとき、消えるとき−昭和二三年の「祝祭日の改正」の議論から」石川照子・高橋裕子編『家族と教育』明石書店、2011 年、52-76 頁、査読無。

4. 沢山美果子「都市と農村の関係からみた近世大坂の捨て子」『文化共生学研究』（岡山大学大学院社会文化科学研究科）第 11 号、2011 年、59-81 頁、査読有。

5. 沢山美果子「歴史の中の親と子―男・女・子どもの過去と未来」『人権 21・調査と研究』（岡山人権問題研究所）210 号、2011 年、3-7 頁、査読無。

6. 沢山美果子「乳からみた近世大阪の捨て子の養育」『文化共生学研究』第 10 号、2011 年、157-181 頁、査読有。

7. 中野智世「福祉の現場における家族－1920～1930 年代ドイツにおける家族保護ワーカーの活動から」『比較家族史研究』第 25 号、2011 年、32－56 頁、査読有。

8. 小玉亮子「〈教育と家族〉研究の展開―近代的子ども観・近代家族・近代教育の再考を軸として」『家族社会学研究』第 22 巻第 2 号、2010、154-164 頁、査読無。

9. 三成美保「ドイツ近代法の形成とジェンダー言説」『比較法と法律学』（早稲田大学比較法研究叢書第 37 号）、2010 年、195-228 頁、査読無。

10. 沢山美果子「一関藩の「育子仕法」からみた武士層の妊娠、出産」『文化共生学研究』第 9 号、2010 年、59-82 頁、査読有。

11. 沢山美果子「近世後期の「家」と女の身体・子どもの「いのち」−「いのちのジェンダー史」のために−」『七隈史学』第 12 号、2010 年、3-17 頁、査読無。

12. 小玉亮子「父親論・母親論−「父親不在」と「母子密着」という問題−」、広井多鶴子・小玉亮子編『文献選集　現代の親子問題　別巻』日本図書センター、2009 年、265-294 頁、査読無。

13. 小玉亮子「捨て子・虐待・子殺し・子の売買−子どもたちの受難−」、広井多鶴子・小玉亮子編『文献選集　現代の親子問題　別巻』日本図書センター、2009 年、295-328 頁、査読無。

14. 小玉亮子「ひとり親家庭・養子・里子・いろいろな親子−近代家族規範と子どもたち−」、広井多鶴子・小玉亮子編『文献選集　現代の親子問題　別巻』日本図書センター、2009 年、329-361 頁、査読無。

15. 高田実「ニュー・リベラリズムにおける「社会的なるもの」」、小野塚知二編『自由と公共性―介入的自由主義とその思想的起点』日本経済評論社、2009、81-116 頁、査読無。

〔学会発表〕（計 13 件）

1. Ryoko KODAMA, Miho KATO, Mariko ISHIGURO, A Comparative study on the early childhood educational Curriculum Reform in 2000s- Japan, England and Germany-. 10th Annual Hawaii International Conference on Education 5.01.2012. Honolulu, Hawaii, USA.

2. 岩下誠「アイルランド公教育の成立をめぐって−研究動向と今後の課題−」教育史学会第 55 回大会、2011 年 10 月 2 日、京都大学。

3. 中野智世「西ドイツ社会国家における民間福祉団体―1950 年代のカリタス連盟を例として」、ドイツ現代史学会、2011 年 9 月 17 日、東京大学駒場キャンパス。

4. Tomoyo, Nakano, Freie Wohlfahrtspflege im Sozialstaat. Am Beispiel der Caritas in der BRD in den 1950er Jahren, Workshop: Japanische Perspektiven auf den deu- tschen Sozialstaat im , langen ‘20. Jahrhundert, Max-Planck-Institut für Sozial- recht und Sozialpolitik (München),（共催「マックスプランク社会法・社会政策研究所」）2011 年 9 月 8 日　ミュンヘン大学、ドイツ。

5. 岩下誠「イギリス公教育史のなかのヴォランタリズム―研究成果の総括と展望―」日英教育学会 2011 年度年次大会、2011 年 9 月 3 日、京都女子大学。

6. 岩下誠「18 世紀末イングランドにおける民衆教育の構造転換と女性―サラ・トリマーとブレントフォード日曜学校の事例から―」、イギリス女性史研究会第 15 回研究会、2010 年 12 月 18 日、青山学院女子短期大学。

7. 沢山美果子「性と生殖からみた近世女性の身体と子どものいのち」、民衆史研究会 50 周年記念シンポジウム、2010 年 12 月 11 日、早稲田大学。

8. 岩下誠「19 世紀初頭イングランドにおける国民教育概念の成立―「ベルーランカスター論争」の検討を中心に―」2010 年度史学会大会、2010 年 11 月 7 日、東京大学。

9. 岩下誠「イギリス児童文学史における教訓主義的起源−サラ・トリマーの「急進的子ども観」受容をめぐって−」日本教育学会第 69 回大会、2010 年 8 月 21 日、広島大学。

10. 中野智世「敗戦・インフレ・大量貧困－1920 年代ドイツにおける女性福祉職員の日記から」、ジェンダー史学会年次大会シンポジウム「カタストロフィーとジェンダー秩序の変容－パンデミック・地震・経済危機」、2009 年 11 月 29 日、立教大学。

11. 小玉亮子「近代ドイツにおける家族と国家、そして、第三項−教育史における家族研究の射程−」、教育史学会第 53 回大会シンポジウム「教育史における家族・家庭」、2009 年 10 月 10 日、名古屋大学。

12. 沢山美果子「近世における『産むこと』『育てること』と子どもの『いのち』」、日本心理学会ワークショップ「子どもを育てることの普遍性と特殊性～文化と進化とこころの未来(2)」、2009 年 8 月 28 日、立命館大学。

13. 沢山美果子「近世における産むこと、産まないことと子どもの『いのち』」、比較家族史学会研究大会第 51 回大会シンポジウム「歴史の中の『少子化』」、2009 年 6 月 20 日、大阪大学豊中キャンパス。

〔図書〕（計 1 件）

橋本伸也（編）『「子ども」の保護・養育と遺棄をめぐる学際的比較史研究（中間報告書）』関西学院大学、2011 年、137 頁。

〔その他〕

ホームページ等

http://kgur.kwansei.ac.jp/dspace/handle/10236/3511

http://kgur.kwansei.ac.jp/dspace/handle/10236/7193

６．研究組織

(1)研究代表者

橋本　伸也（HASHIMOTO　NOBUYA）
関西学院大学・文学部・教授
研究者番号：30212137

(2)研究分担者
廣田　照幸（HIROTA　TERUYUKI）
日本大学・文理学部・教授
研究者番号：10208887

小玉　亮子　（KODAMA　RYOKO）
お茶の水女子大学・人間文化創成科学研究科（研究院）・教授
研究者番号：50221958

(3)連携研究者
沢山　美果子（SAWAYAMA　MIKAKO）
岡山大学・文学部・客員研究員
研究者番号：10154155

羽田　貴史（HATA　TAKASHI）
東北大学・高等教育開発推進センター・教授
研究者番号：90125790

高田　実（TAKADA　MINORU）
下関市立大学・経済学部・教授
研究者番号：70216662

中野　智世（NAKANO　TOMOYO）
京都産業大学・経営学部・准教授
研究者番号：90454470

塩崎　美穂（SHIOZAKI　MIHO）
尚絅大学短期大学部・幼児教育学科・准教授
研究者番号：90447574

三成　美保（MITSUNARI　MIHO）
摂南大学・法学部・教授
研究者番号：60202347

(4)研究協力者
江口　布由子（EGUCHI　FUYUKO）
高知工業高等専門学校・総合科学科・講師

岩下　誠（IWASHITA　AKIRA）
慶應義塾大学・教職課程センター・助教

中村　勝美（NAKAMURA　KATSUMI）
広島女学院大学・文学部・准教授

前田　更子（MAEDA　NOBUKO）
明治大学・政治経済学部・講師

秋葉　淳（AKIBA　JUN）
千葉大学・文学部・准教授

内山　由理（UCHIYAMA　YURI）
首都大学東京・大学院人文科学研究科・学生

長嶺　宏作（NAGAMINE　KOSAKU）
日本大学・国際文化学部・助教

岡部　造史（OKABE　HIROSHI）
熊本学園大学・社会福祉学部・准教授